様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　６月　２５日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005～2009
課題番号： 17083014
研究課題名（和文）五山文学における宋代詩文の受容と展開－詩文集の注釈と詩話を中心に－
研究課題名（英文）Acceptance and Development of Song Lyrics by the Five Mountain School of Literature －with Focus on Annotation to Collections of Poems and Theory of Poetry－

研究代表者
浅見　洋二（ASAMI YOJI）
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：70184158

研究成果の概要（和文）：本研究は、鎌倉時代末期より室町時代に至る五山禅林の漢文学において、中国宋代の詩文がどのように受容されていったか、主として詩文集（およびそれに附された注釈）と詩話という二種類の文献資料を取りあげて、中国文学と日本文学双方の視点から、多角的に解明したものである。

研究成果の概要（英文）：This research studied acceptance and development of literature of Song China by the Five Mountain school of literature in the medieval Japan (from late Kamakura to Muromachi) from the perspective of Japanese literature and Chinese literature. The characteristics of annotation of collections of literary works and theory of poetry written by literati of Five Mountain school has been made clear from various angles.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	6,200,000	0	6,200,000
２００６年度	6,300,000	0	6,300,000
２００７年度	6,300,000	0	6,300,000
２００８年度	6,300,000	0	6,300,000
２００９年度	6,300,000	0	6,300,000
総　計	31,400,000	0	31,400,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論
キーワード：五山文学・宋代・詩文集・注釈・詩話

１．研究開始当初の背景

日本漢文学の研究にあって、これまで五山文学研究は必ずしも十分とは言えない状況にあった。その理由の一つに、五山の禅僧たちが依拠した中国の文献資料に関する理解が行き届いていなかったことが挙げられる。また、日本漢文学の研究者と、中国文学の研究者との共同研究の態勢が十分ではなかったことも関わっていよう。

本研究はその欠を補うべく、日中両国の文学研究者が共同して、五山文学とそれが受容した中国宋元の文学との関係について多角的に考察することを目的として構想された。

また、従来の日中比較文学研究には、文学研究以外の政治・法律、思想・宗教、社会・経済、自然科学等の多分野の中国研究との連携が十分ではなかった。本研究は、そのような多分野の研究との共同作業をも視野に入れ

て構想されたものであり、この点において独自の特色を持つ。

日本と中国という双方の視点、また多分野の研究の視点を導入することによって、従来型の日中比較文学研究とは異なる新たな研究領域・研究方法が創出されることが予想される。

２．研究の目的

本研究は、鎌倉時代末期より室町時代に至る五山禅林の漢文学において、中国宋代の詩文がどのように受容されていったか、東アジア海域文化交流という巨視的な視点をも踏まえつつ研究するものである。

いわゆる五山の禅僧たちは、中国に留学した者も多く、寧波を中心とする東アジア文化交流の重要な一翼を担う存在であった。彼らに影響を与えた中国詩文の中で最も中心的な位置を占めたのは宋代の詩文であるが、本研究はその中でも特に詩文集の注釈と詩話という二種類の文献資料に着目する。

中国宋代の詩文集注釈と詩話の編纂状況およびそこに現われた文学観のあり方を視野に入れつつ、五山禅林におけるそれら文献資料の受容状況を整理・検討するともに、それらの文献資料がどのような加工・増修を受けたか、そして日本独自の詩文注釈・詩話の形成にどのように関わっていたか、その全体像を明らかにすべく、本研究は次の三点を主要目的として行われる。

(1)五山文学における宋代詩文の受容を反映する文献資料に関する文献書誌学的研究。

(2)五山文学における宋代詩文の受容を反映する文献資料に関する文学論的・社会文化論的研究。

(3)上記(1)(2)を踏まえた東アジア海域文化交流に関する研究。

上記の(1)に関しては、国内外の伝存漢籍の調査を通して、従来の研究に漏れたものについて実態調査を行いつつ、五山禅林における漢籍の受容・伝承・加工の全体像、およびその文献学的特質を明らかにする。

上記の(2)に関しては、宋代詩文に関する研究と関連づけながら、五山禅僧の漢詩文受容とその創作の全体像を、詩話や注釈にあらわれた文学観や当時における詩文の社会的文化的意義を明らかにする。

そして、上記(3)に関しては、他の分野と共同で開催するシンポジウム・セミナー等において、上記(1)(2)の研究成果について多角的な検討を加える。それによって、東アジア海域文化交流に関する新たな理論的枠組みの提示に寄与することをめざす。

３．研究の方法

本研究は、中国文学、日本文学双方の研究視点、および東アジア海域文化交流の視点を総合する形で行なわれたものであるが、特に上記研究目的の（１）に関しては、次のような方法によって研究を行った。

まず、五山文学に影響を与えた中国詩文の中で最も中心的な位置を占めた宋代の詩文、とりわけ詩文集の注釈と詩話という二種類の文献資料について、中国国内での受容・伝承について検討を加え、それを踏まえつつ、日本の五山禅林におけるそれら文献資料の受容・伝承の解明を行った。その際に、『聯珠詩格』、『錦繡段』といった版本資料に加えて、特に重要な資料として重点的に検討を加えたのは、抄物と呼ばれる五山禅僧の書きあらわした文献資料である。特に多々ある抄物のうち、『貞和集』（『聯芳集抄』）に特化して研究を行った。同書には、中国宋元代の禅僧たちの詩文をはじめとする中国の典籍が豊富に引用されており、それについて詳細な検討を加えることにより、従来十分に解明されているとは言い難い五山文学における中国典籍の受容実態を明らかにしようとした。

上記の(2)に関しては、まずは中国宋代における詩文集・詩話の整理・編纂状況に関する研究に重点を置いて進めた。そのうえで、その成果を踏まえつつ、五山禅林における抄物などの文献資料に対する検討を加えた。中国文学研究の成果を五山文学研究にいかにして活用するかという研究方法をめぐる相互検討も重要な課題となった。

上記の(3)に関しては、本特定領域研究の他の研究班との相互交流を密接に図った。具体的には、日本史・東洋美術史・禅宗仏教学・中国宋代思想史・中国宋代史・喫茶文化学等をはじめとする他分野と共同でシンポジウムやセミナーを開催し、それぞれの成果を持ち寄り相互に検討を加えた。

４．研究成果

以下、研究期間内に行った主な研究のうち特に三つの項目を取りあげて、それぞれの成果について述べたい。

(1)五山文学関連文献資料の調査・研究

金刀比羅宮図書館・明徳会図書館・柳川古文書館・岩瀬文庫・山口大学総合図書館・九州大学付属図書館・久留米市立中央図書館・神戸市立図書館・神戸大学付属人文科学図書館等の国内の所蔵機関、上海図書館・浙江図書館・南京大学図書館・鎮江市図書館・台湾国立故宮博物院図書文献館・台湾国家図書館・中国国家図書館・北京大学図書館・復旦

大学図書館等の国外の所蔵機関において、五山文学関連の文献資料調査を行った。また、これと並行して『貞和集』をはじめとする五山抄物資料に関する研究を行った。

上記研究の成果は『韻府群玉』、『錦繍段』、『聯珠詩格』等の書物に関する研究論文となって結実した。いずれも綿密な書誌学的調査に立脚して、日本における中国文献の受容・展開の実態を詳細に明らかにした研究であり、今後の研究にとって重要な基礎を提供するものである。この項目の代表的な成果としては、堀川貴司「五山における漢籍受容―注釈を中心として―」、住吉朋彦「旧刊『聯珠詩格』版本考」などがある。

(2)「東アジアのなかの五山文化」研究

本特定領域研究では重点項目研究として「東アジアのなかの五山文化」を設定し各研究班を横断するかたちで研究を行った。その一環として2007年度には、二回の国際シンポジウム「東アジア海域文化交流のなかの五山禅林Ⅰ」「同Ⅱ」を、2008 年度には夏期セミナー「東アジア海域の中の五山文化」を開催したのに加えて、2008年度以降、五回にわたって「東アジアのなかの五山文化」研究会を開催した。本研究班は、これらの活動に中核となって関わった。

本項目の研究は、単に文学研究のみならず、日本史、宗教・思想史、美術史、喫茶文化研究といった多方面の視点を交えて、総合的に五山禅林の文化について検討したものである。これまで各研究分野に分かれて行われてきた「五山文化」研究に共通のフィールドをもたらした点で、その意義は少なくない。この項目の成果については、本特定領域研究の一般向け叢書の一巻、および専門論文集として公刊する計画を進めている。

(3)宋代詩文研究

宋代の詩文集の刊刻状況や詩文集に附された注釈などに関する研究を行うとともに、毎年５月に宋代詩文研究会・宋詞研究会と合同で「宋代文学研究談話会」を開催し、中国の研究者も加わって宋代詩文に関する多角的な検討を加えた。

上記(1)(2)が日本の五山禅林に焦点を当てた研究であるのに対して、本項目の研究は宋代の中国に焦点を当てた研究である。日本における受容のあり方を視野に入れつつ、宋代の詩文集について検討を加えることにより、日中間の文学・学術交流に関する新たな知見を少なからず得ることができた。そのうち特に中国宋代における詩文集の編纂・刊刻状況に関する研究成果については、中国宋代文学会主催の国際シンポジウムなどにおいて報告を行った。この項目の代表的な成果としては、内山精也「宋代刻書業の発展と宋詩の近世化現象」、浅見洋二「校勘から生成論へ―宋代の詩文集注釈、特に蘇黄詩注における真蹟・石刻の活用をめぐって―」などがある。

最後に、以上を踏まえて本研究の持つ意義について述べたい。

これまで、五山文学に関する研究は必ずしも十分とは言えなかった。その理由の一つに、五山の禅僧たちが依拠した中国の文献資料に関する理解が行き届いていなかったことが挙げられる。その欠を補うものであった点で、まず本研究は重要な意義を持つ。日本と中国という双方の視点を導入することによって、従来型の日中比較文学研究とは異なる新たな研究領域・研究方法が創出される可能性を切り開いたと言えよう。

五山の禅林には、中国留学の経験を持つ日本人僧も多く、また中国からの渡来僧も多く活動していた。まさに中国と日本という異なる言語文化が交差・融合する特別な空間であり、そこには「寧波」を核とする東アジア海域文化交流が凝縮して現れている。かかる五山禅林にあって、どのような文学・学術活動が行われていたのかを検討する本研究は、本特定領域研究の重要な核の一つとなるものであった。

多様な研究分野との連関のもとに、東アジア海域文化交流という巨視的な視点から五山禅林の文学・学術活動が持つ意味を明らかにした点で、本研究は五山文学研究に画期的な進展をもたらしたと総括できよう。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 18 件）

①浅見洋二、校勘から生成論へ―宋代の詩文集注釈、特に蘇黄詩注における真蹟・石刻の活用をめぐって―、東洋史研究、査読有、68巻１号、2009、34-69
②内山精也、古今体詩における近世の萌芽―南宋江湖派研究事始、江湖派研究、査読無、1輯、2009、1-53
③堀川貴司、五山における漢籍受容―注釈を中心として―、中国―社会と文化、査読有、24 号、2009、211-223
④堀川貴司、『九淵詩稿』について―室町時代一禅僧の詩集―、文学、査読有、10 巻 3 号、2009、70-80
⑤ 住吉朋彦、旧刊『聯珠詩格』版本考、斯道文庫論集、査読有、43 号、2009、215-265

⑥住吉朋彦、中国―社会と文化、査読有、24号、2009、224-249
⑦浅見洋二、黄庭堅詩注の形成と黄氏『山谷年譜』―真蹟・石刻の活用を中心に―、集刊東洋学、査読有、100号、2008、182-205
⑧堀川貴司、三条家旧蔵『経国集』紙背文書について―公条と月舟寿桂―、国語と国文学、査読有、85巻8号、2008、28-40
⑨堀川貴司、中世抄物研究の現在、国文学解釈と鑑賞、査読無、2008、21-27
⑩浅見洋二、「焚棄」と「改定」―唐宋期における別集の編纂あるいは定本の制定をめぐって―、立命館文学、査読無、598 号、2007、30-40
⑪住吉朋彦、米国議会図書館蔵日本伝来漢籍目録解題長編、斯道文庫論集、査読有、41号、2007、201-270
⑫浅見洋二、「文章一小技」―五山禅林の詩僧にとっての「道」と「詩」―、アジア遊学、査読無、93号、2006、90-99
⑬内山精也、宋大士大夫の詩歌観―蘇軾「白俗」評の意味するもの―、松浦友久追悼記念中国古典文学論集、査読無、2006、701-716
⑭内山精也、万里集九と宋詩、アジア遊学、査読無、93号、2006、111-121
⑮住吉朋彦、朝鮮本『増続会通韻府群玉』版本考補正―、藝文研究、査読有、91巻1号、2006、167-199
⑯堀川貴司、中世の漢文学―『和漢朗詠集』と『錦繍段』を手がかりに―、東アジア比較文学研究、査読無、5号、2006、43-55
⑰内山精也、宋大士大夫の詩歌観―「蘇黄」から江湖派へ―、橄欖、査読無、13号、2005、5-32
⑱堀川貴司、中世から近世へ―漢詩文、漢籍をめぐって―、中世文学、査読有、50号、2005、22-27

〔学会発表〕（計6件）

①浅見洋二、黄庭堅詩注的形成与黄氏『山谷年譜』、第6回宋代文学国際学術研討会、成都（中華人民共和国）、2009年10月23日
②内山精也、宋詩能否表現近世、第6回宋代文学国際学術研討会、成都（中華人民共和国）、2009年10月22日
③浅見洋二、由“校勘”到“生成論”―有関宋代詩文集的注釈特別是蘇黄詩注的特点―、第3回文学伝播与接受国際学術研討会、花蓮（台湾）、2008年4月29日
④内山精也、長淮詩境―従淮河詩篇看的唐宋転型―、第5回宋代文学国際学術研討会、広州（中華人民共和国）、2007年12月24日
⑤浅見洋二、「形似」的新変―従語言与事物的関係論宋詩的日常性特点―、中国近世文学国際研討会、台南（台湾）、2005年10月21日
⑥内山精也、宋大士大夫的詩歌観―従江西派到江湖派―、中国近世文学国際研討会、台南（台湾）、2005年10月21日

〔図書〕（計2件）
①浅見洋二、創文社、中国の詩学認識―中世から近世への転換―、2008、708
②堀川貴司、若草書房、詩のかたち・詩のこころ―中世日本漢文学研究―、2006、428

６．研究組織
(1)研究代表者
浅見　洋二（ASAMI YOJI）
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70184158
(2)研究分担者
内山　精也（UCHIYAMA SEIYA）
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：20275017
堀川　貴司（HORIKAWA TAKASHI）
鶴見大学・文学部・教授
研究者番号：20229230
住吉　朋彦（SUMIYOSHI TOMOHIKO）
慶應義塾大学・附属研究所斯道文庫・准教授
研究者番号：80327668

(3)連携研究者
なし